

1 自己評価及び外部評価結果(3階)

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／3階)

事業所番号	2794300059		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり幸町		
所在地	大阪市浪速区幸町3-7-25		
自己評価作成日	令和6年9月10日	評価結果市町村受理日	令和6年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症と診断されても「人」として当たり前の暮らしに焦点をあてたケアに取り組んでいます。生活リハビリやレクリエーション等各フロア毎に実施し、入居者様のハリや楽しみ、筋力低下等の緩和に努めています。行事やレクリエーション、生活リハビリ等を通じて入居者様が自身の暮らしを自身のペースで自発的に過ごして頂ける為にはどのような援助や工夫が必要かを家族様の意見も踏まえて話し合い、その取り組みの過程を重視する事で職員の成長にも繋がればと思っています。毎月全体会議後にテーマ別に勉強会を実施し、未だ続く感染症やいつ起こり得るかも知れない災害時に備えた訓練も今後増やしていきたいと考えています。協力医療機関との連携はもとより、その他精神科、歯科等連携し情報を共有することでより迅速に必要な医療が受けられるよう支援しています。運営推進会議では入居者様の状況、行事や事故報告等を行い、参加者が意見交換し易く交流の場(座談会のような)となれる様アットホームな雰囲気で開催しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 3階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人」としての想いを大切にし互いに信頼しあい笑顔で快適に過ごせる生活の場。}というひかり幸町独自の理念を掲げ、各フロアの目に付く所に設置している。新入職員研修時には必ず理念から説明を行い、また日頃より必要時には投げかけ共有し実践に繋がられるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶地域の祭り、地蔵盆、親睦会など保育所や近隣、町会と交流を図っている。また、花見や大阪マラソン沿道応援などで多くの方と交流が持てる様努めている 回覧板も回ってくるため地域の情報を共有している。介護川柳大会にも毎年参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談等看板やのぼり、チラシでお知らせし、気軽に訪ねて来てもらえるよう周知を図っている。また、気になる方や、お困りの様子の方をみかけるとお声かけし必要時には適所へ連絡を取ったり等の支援を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者および職員の状況、事故報告、行事報告、取り組み等の報告を行い参加者様からの要望や意見を取り入れながらサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のケースワーカーに定期的にケアプランの提出や相談をしたり、社会福祉協議会の各担当者とは連携を図り協力関係を築いている。また、大阪市のポイント事業にも登録している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実地指導の際に玄関は施錠するようにとの指示があった。しかし、日中は外階段を開口し、風通しを行い、天気や季節感を感じて頂けるようにしている。身体拘束においては3カ月に1回以上の適正委員会を開き年2回以上の勉強会や伝達研修を行い、職員全員が正しく理解し拘束拘束0のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者虐待のビデオ視聴や勉強会、ホーム外研修への参加等ホーム実施している。また、日頃無知である事から出てしまう何気ない言動・対応においてもその場ですぐ忠告・指導をするよう心がけている。ホーム内に9か所カメラを設置している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外研修において学ぶ機会を持ち、管理者と各階介護支援専門員は個々の必要性を見極め、関係者と話し合い支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、解りにくい文言や質問等を伺い、納得・理解して頂けるよう説明を行っている。また、改定・解約の際は速やかに通達し、了承を得、改定の際は同意書を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会であったり、日頃から何気ない会話の中で入居者や家族様から伺ったりしている。なかなか言いにくい事などは意見箱も玄関に設置し、運営に反映できる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・ケアマネ・管理者で行う三者会議並びに職員、本部を交えての全体会議各フロアー会議、またその都度個別面談を行い、全員が意見や提案を出し合えるよう働きかけ改善できるものから実行している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績・勤務状況などの評価を行い、年1回の給与ベースアップや年2回の賞与査定、その他本部からの一時金(品)等やりがいに繋がれるよう努めている。また、定期的に就業規則や処遇改善の見直しを図ったり職場環境の整備にも力を注いでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会に加え、認知症介護実践者研修をはじめ法人内外の研修に積極的に参加を促すことで、職員一人一人のスキルアップに努めている。また、資格支援制度を設け、働きながら資格取得できる様、シフト調整や資金援助も行っている。OJTシートを作成し、新人研修に役立てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートにて他の施設、グループ内施設への研修会を通じて交流を図り、取り組みや、事例検討、計画書作成など様々な意見交換をしている。 また、昨年度より同業者の横の繋がりを重視した交流会へ参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、ケアマネはしっかり本人様や家族様から情報を集め、環境や生活が変わる為不安感が有ると思いますが管理者、ケアマネ、職員が情報を共有する事で安心できる関係が築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様から詳細に本人様の事等の聞き取りを行うようにし、入居後も定期的に報告を行っている。質問や要望については速やかに対応し、良好な関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に聞き取りを行い他サービスの利用も含めた希望を取り入れ、実施出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援をするだけではなく家事等出来る範囲で共に行い得意の事など年配者から学ぶことも多い。人生の先輩としてまた海外(ミャンマー)からのスタッフも増えているのでコミュニケーションも取り辛い所があるがゆっくりではあるが良好な関係を築ける様になって来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住んでいたたり、面会の少ない家族様には電話や手紙で本人様の日常の暮らしぶり等伝えています。また桜見物を兼ねた町会の催しで大川のクルージング等家族様も一緒に参加して下さったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物など外出の機会を通じ、馴染みの場所へ行っている。運営推進会議、行事の参加の連絡を行い交流の機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒にリビングで過ごす事が多く孤立する事は少ない。コミュニケーションが取り辛い時は職員が利用者の間に入り良好な関係作りが出来るようお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所、又は入院された利用者様には何度か面会に行ったり、家族様の困りごとなど相談や悩みなどあった時は可能な範囲で相談を受ける様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネ、職員を中心にじっくりと話が出る関係を築き、希望や要望など把握出来る様に努めている。日常の会話や行動の記録家族へ聞き取り生活歴などを参考にして本人様本位の支援が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人、家族、現在担当のケアマネ、馴染みの方に十分な聞き取りを行い、本人様の生活歴や暮らしぶり等把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を詳細に残し、職員全員が共有できるように努めている。普段の何気ない会話や様子からも思いや本人の出来る事を知るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人、家族への聞き取りを行うとともに、プラン作成時には担当者会議を開催し、それぞれの意見を取り入れる様になっている。医師、歯科医、看護師、マッサージ師とも協力し計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りを利用して、情報の共有を行っている。その他、管理者、ケアマネが中心になり、随時職員への聞き取りも行い、モニタリングの実施、介護計画の見直しにいかせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族様のニーズに対応し、必要なサービスの提案、検討を行っている。対応が難しい場合は、代替案を提示している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人や馴染みのスーパー、町会の行事等今まで関係が途切れない様に支援している。コロナ感染がなかなか落ち着きませんが感染防止に努めながら行事等に参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回内科往診、精神科往診 月に1回眼科往診 週に1回歯科往診 週に1回精神科訪問看護、週に2回内科訪問看護 異変時医師とのラインで指示を仰ぐようにしている。また家族様には体調面の変化等連絡しています。定期的な往診以外にも必要であれば臨時往診の措置をとって頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科訪問看護は週2回健康観察を受けている。 日々の状態や排便状況等必要な処置の指示を仰ぐ。 精神科訪問看護の訪問により日々の様子を報告し困りごと等相談し、日々穏やかに過ごして頂ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に付き添い、情報を提供し家族様との連絡も密にし、病状の把握や相談が出来る様に努め、本人様、家族様の許可を得て主治医や相談員との情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に先ず重度化した場合や終末期の方針、ホームでできる事を説明し、同意を得ている。管理者をはじめ職員は看取り研修等終末期ケアについて勉強会や外研修を通じて学んでいる。 家族、主治医との連絡を密に尊厳ある看取りができるように努めてる。看取りとなられた方の家族様の希望に添えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開き、急変や事故発生時の初期対応について座学および訓練を行っている。月1回全体会議でフロアごとの事故報告を行い、職員間で検証し再発防止に努めている。何度も繰り返し行っていくことで全職員が実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練においては教養型と実践型訓練を行っている。地震、台風などの災害においては、避難場所、避難経路は確認している。ビデオ視聴や机上シミュレーション訓練を定期的に行い、実際災害が起った時に慌てず入居者を安全に避難させることを優先に取り組んでいる。今後は地域との共同訓練も視野に入れ実践力を養う必要がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の暮らしの会話では、受容・傾聴に重視して声掛けの仕方には特に気を付けている。特に排泄時や入浴時には尊厳・プライバシーの重視に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を重視・尊重し、要望を表現出来やすい環境・自己決定が選択出来るような支援を心掛け、本人の立場に立った支援に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導の時間の使い方ではなく、毎日決まった時間での暮らしに捉われず、その日の本人に合ったペースでの食事時間・入浴時間・昼寝の時間と自身の一日の時間の使い方をコミュニケーションを持ちながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や下着等は、本人と共に通販カタログで希望の品を購入する様にし、また、化粧水や髪留め等の品もカタログ商品から希望される物を身に付けて頂く支援を行い、整髪に関しては2ヶ月に1度本人希望の髪型に添える様に理美容との連携を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力を活かしながら、調理中より調理方法で相談したり、おかずの盛り付け等の準備を共に行っている。また、食事時は職員と会話を楽しみながら召し上がって頂き、食事後も下膳や片付けを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事・水分量を記録に取り栄養支援に取り組んでいる。また、個々の状態に合わせムース食を導入し、食べやすい調理法や食事形態も考えながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人にて可能な方には毎食後に口腔ケアを実施して頂き、介助が必要な方には口腔内の状態を確認しながら歯ブラシの他にスポンジブラシを使い支援している。また週1回の歯科訪問での診療を受けアドバイスも頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗要因を、カンファで検証し改善努力に努め、排泄時は記録に取り長時間排泄が行われていない方には声かけを行い、個々の排泄習慣を職員は把握し、尿量に適したオムツ・パットを個々で選定し支援をしている。また、個々の力に合った排泄介助に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には牛乳を飲んで頂いたり、麦ごはん・寒天ゼリー・ヨーグルトを召し上がって頂く等の工夫をし、下腹部ホットパックやマッサージ、また散歩等の運動を勧める支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的にはあるが、本人の希望日や時間に合わせ出来るだけ入浴して頂いている。浴室内では、視覚・聴覚での環境作りとして職員との会話や音楽を流す等でリラックスを図り、嗅覚では入浴剤を使いリラックス出来る環境を楽しんで頂いている。介助が必要な方は体調に合わせて入浴して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが大きく狂わない程度に自由に休息をして頂いている。朝が苦手な方には少し遅く起床して頂いたり、昼間の休息も居室やフロアで自由に安眠出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安定剤服用によるリスクを考え、職員へは薬の知識を学ばせ過剰投与に陥らない様に定期的にスタッフ間や、主治医、本人との話し合いで支援している。また、目的や効果等は必要に応じて24時間シートで様子観察を行い症状の変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴から掃除好きな方、パチンコ好きな方、話し好きな方、将棋好きな方、各々に合った日々の役割・楽しみ方に努めている。天候の良い日は散歩に出掛けたり、嗜好品を楽しまれたり、フロアでカラオケを楽しまれ気分転換も図る環境作り努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で近場への外出は可能な限り努めている。サーカス観戦やクルーズ船ツアーなど可能な限りの希望を把握して家族様や地域の人々の協力を得ながら支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持って頂き、自己にて買い物時の支払いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りには行事ごと等を載せて頂き、近況の報告をしている。本人から連絡したい等の意向がある場合は、その都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアを中心に季節の飾りつけや、カレンダー、行事ごとの写真を置き明るい雰囲気を作り、季節感を感じて頂けるよう努める。音・明るさにも快適な空間作りに努め、室温は室温計で確認し居心地良い空間に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは本人が自由に好きな事をして頂けるような支援に努めている。個人のテーブルで好きな事が出来る物を用意し楽しんでもらったり、ソファを置きリラックスしてもらったり、他の利用者と過ごせる場所とを用意し、テレビは懐かしの番組をインターネットより取り入れ放映したり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には可能な限り馴染みの品を持って来て頂き、出来る限りこれまでの生活と同じような空間で過ごして頂けるように努め、レイアウト変更の際には家族様と本人と相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアでは、動線を考慮し席の配置の工夫を行い、危険と思われる物は置かず安全に生活出来る様に努めている。食事の下膳に関しては、可能な入居者様にはして頂き、できることを活かす環境作り、混乱しやすい箇所には表示を掲示し、わかることを活かす環境に努める。		